

計画ごみ排出量・資源化量と計画施設規模

I. 計画ごみ排出量予測の前提条件

一般廃棄物資源化計画に基づき、以下の条件により計画ごみ排出量を予測した。

| | |
|---|--|
| <p>1. 計画収集人口 計画収集人口は、市政経営部作成の人口推計(2011年4月)を採用する。</p> <p>2. ごみ削減目標 ・人口増加に伴って増加する量の発生抑制 ・生ごみの発生抑制(約5000t) ・事業系ごみの排出抑制(約3000t) ・生ごみ処理機による処理(3000t)</p> <p>3. 生ごみの資源化 ・生ごみ処理機による処理(3000t)</p> | <p>・バイオガス化による処理</p> <p>4. プラスチックの資源化 ・現状のプラスチック類の70%を資源化</p> <p>5. 紙の分別収集による再資源化 ・紙類の再資源化(2000t)</p> <p>6. 事業系可燃ごみの組成 ・多摩地域事業系ごみ計量調査より紙類35.1%、生ごみ38.6%とする。</p> |
|---|--|

II. 計画収集人口

計画収集人口は、図-1に示すように計画目標年度(2022年度)で431,155人となり、2010年度人口424,509人に対して1.57%増加傾向にある。

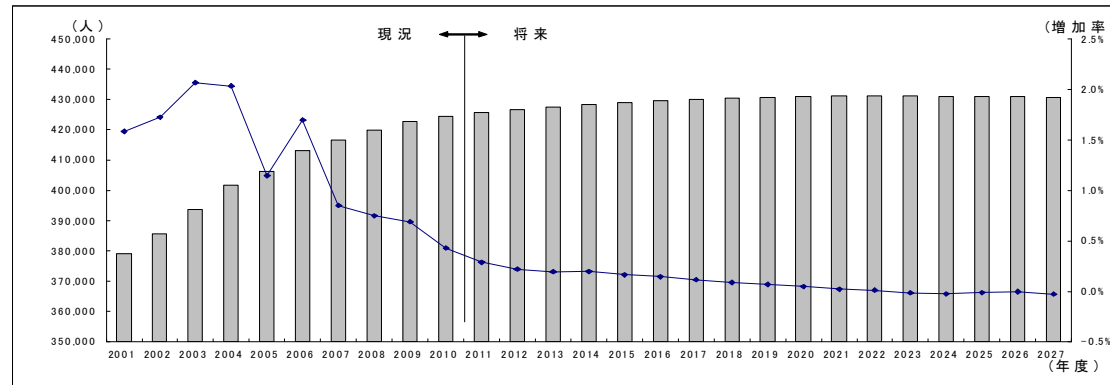


図-1 計画収集人口

III. ごみ排出量の実績

過去10年間のごみ排出量の実績は、図-2に示すように2005年度までは増加傾向を示していたが、2005年10月の家庭ごみの有料化に伴い減少傾向を示している。2010年度の1人1日平均排出量は、839g/人・日となっている。

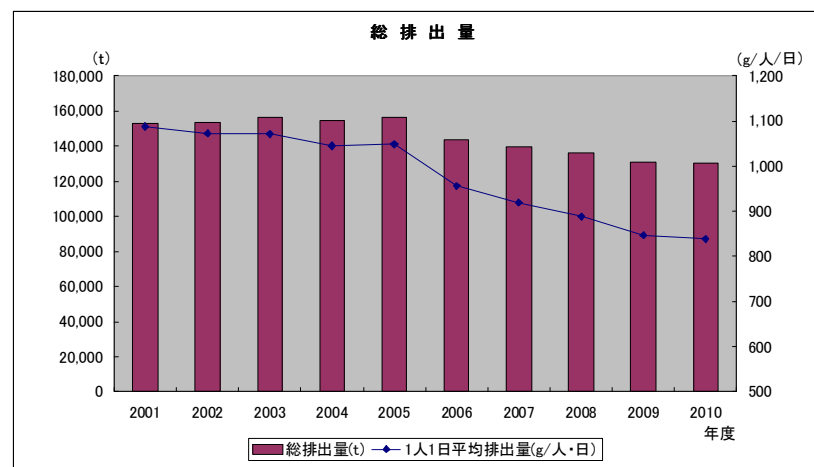


図-2 ごみ排出量の実績

IV. 計画ごみ排出量の予測

以上よりごみの排出量の予測を図-3に示す。計画目標年度(2022年度)におけるごみ処理量は、119,558t/年となります。2022年度の1人1日平均排出量は、760g/人・日となり、2010年度に比べ9.4%減量している。

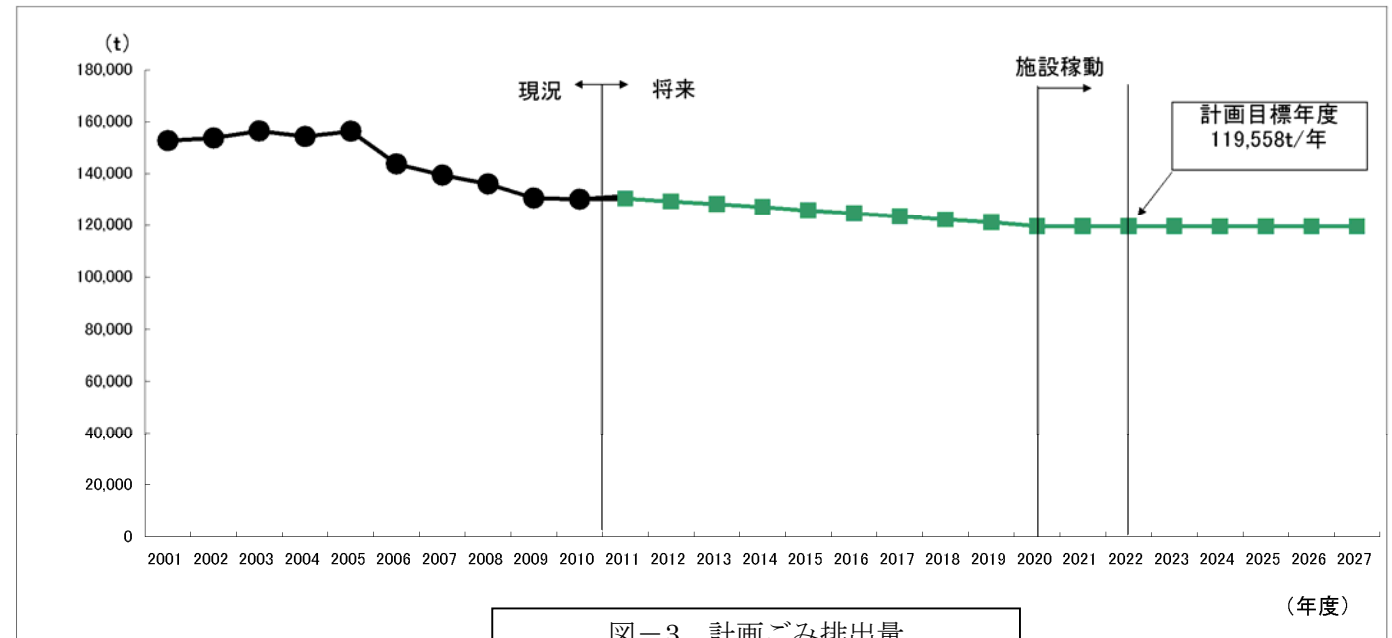


図-3 計画ごみ排出量

V. 計画施設規模

1. 生ごみ、紙の機械選別

生ごみの選別は、機械選別とした場合の回収率を63%、選別残渣を37%、紙類の回収率を30%、選別残渣を70%とする。なお、機械選別等については、今後詳細に専門部会で検討を行う。

2. 乾式メタン発酵残渣発生率

乾式メタン発酵残渣の発生率は、生ごみ15%、紙類40%とする。メタン発酵については、乾式、湿式を含めて専門部会で検討を行う。

3. 多摩ニュータウン環境組合への搬入量

多摩ニュータウン環境組合への搬入量は、燃やせるごみ11,000tと燃やせないごみ1,000tとする。

4. 各施設の計画施設規模

以上より計画目標年度における各施設の計画施設規模は、下表に示す。

| 種 類 | | 新施設規模 | 現有施設 |
|-----|-----------------|----------|----------|
| 1 | 不燃・粗大処理施設 | 45 t/日 | 70 t/日 |
| 2 | ごみメタン化施設 | 49 t/日 | — |
| 3 | 熱回収施設 | 184 t/日 | 476 t/日 |
| 3 | ①プラスチック圧縮・減容ライン | 51.2 t/日 | — |
| | ②カン選別・圧縮ライン | 6.4 t/日 | 4.5 t/日 |
| | ③ビン選別ライン | 19.0 t/日 | 16.0 t/日 |
| | ④ペットボトル圧縮・減容ライン | 5.6 t/日 | 6.0 t/日 |
| | ⑤トレイ・紙パック選別ライン | 0.1 t/日 | 0.1 t/日 |

※機械選別設備は、209t/日